

向こう1年間の市場見通し (12月5日時点)

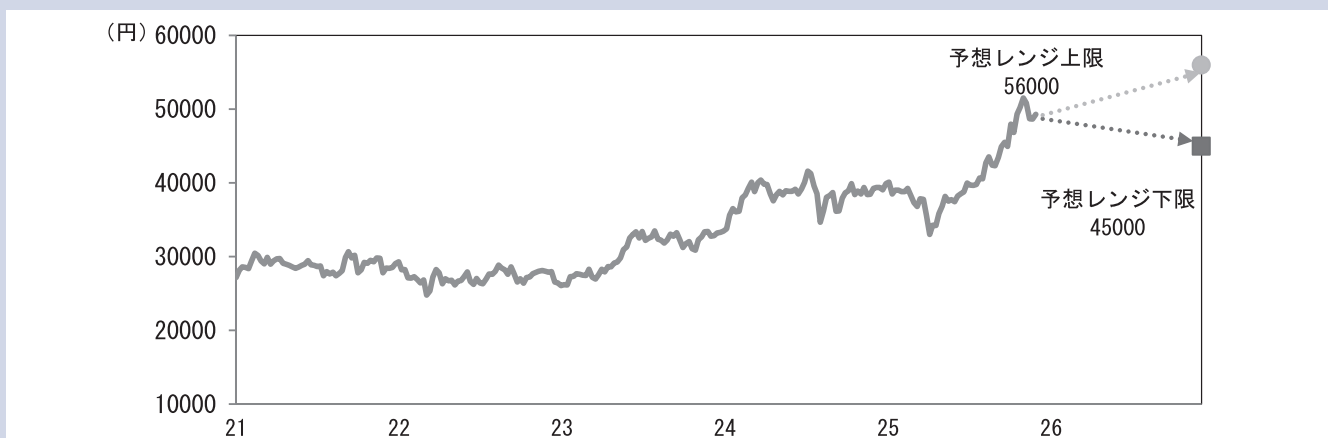
経済調査部 主席エコノミスト 藤代 宏一 (ふじしろ こういち)

予想コメント

	コメント
株式	日本株は、高市政権の経済政策に対する期待、通商政策の不透明感後退などから上昇基調を強めた。トランプ関税の影響は残存する一方、AI・半導体、防衛(含む造船)、インフラ投資に対する期待は強い。日本企業の積極的な株主還元が相場を押し上げる構図も続いている。
ドル円	FRBは2025年入り後、政策金利を据え置いてきたが、労働市場に弱さが見られたことから9・10月に利下げを実施した。もっとも、景気が底堅く、インフレ率再加速の懸念が燦る中、先行きは連続的な利下げにならないことも想定される。その場合、ドル高主導の円安が進む可能性がある。
金利	日銀は10月に政策金利を0.5%で据え置いたものの、利上げ方針は維持した。インフレ圧力が残存する中、日銀は2026年1月までには利上げを再開する見込み。その後、同年後半には1%に達する可能性がある。長期金利は1%台後半～2%台前半で推移するとみている。

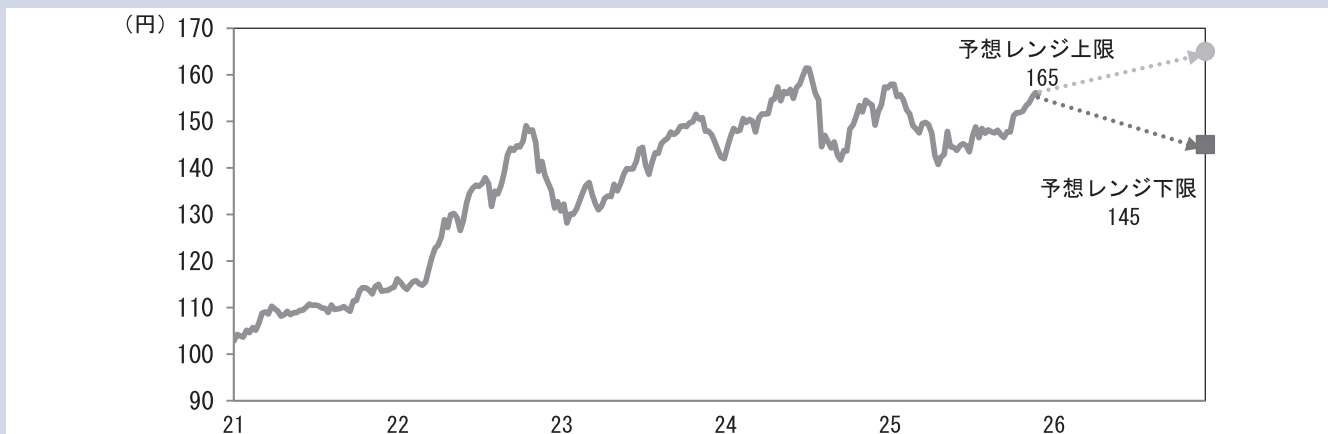
(注)記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。

向こう1年間の日経平均株価



(出所) LSEGより第一生命経済研究所作成

向こう1年間のドル円相場



(出所) LSEGより第一生命経済研究所作成